

聖書はクリスチャンが共に成長することを勧めています。「私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つこととを追い求めましょう。」ローマ 14 章 19 節 一人で成長することは出来ません。共に成長するのです。これからしばらくシリーズで共に成長する秘訣を聖書から学んでゆきたいと思いません。

私たちは、人を生かす力を持っていますし、人を殺す、あるいはダメにする力も持っています。日ごろ、私たちが耳にする言葉の多くは人をダメにする力に関わるものです。「どうしてこんなことが出来ないのか」「もっと頭を使えよ」「もう少しまともになれよ」「そんな人だとは思わなかった」そういう言葉をよく耳にされると思います。ある家庭で三番目に生まれた女性が「我が家は二人の子供で良かったのに」ということばを親から聞いて、自分の存在が否定され、生きているのがつらいと言いました。人が生かされることばよりも何と人が否定され、心傷つくことばが多いことでしょうか。聖書にも「死と生は舌に支配される。どちらかを愛して、人はその実を食べる。」箴言 18 章 21 節ということばがあります。人を殺す言葉があり、人を生かすことばがあるのです。選ぶのはあなた次第で、それによって悪い実か良い実のどちらかを得ることになるというのです。人を生かすことばは相手だけでなく本人も成長します。しかし、人を殺すことばは相手だけでなく、本人も悪循環の中に置かれます。

今日、説教箇所として選びましたルカ 13 章には 18 年間も腰が曲がったままの女性を主イエスが癒される場面が描かれています。18 年の長い間にわたって、人知れず悩み苦しみを身に負って生きてきた女性です。この女性の場合、その重荷は病の霊に取りつかれ、腰が曲がってしまったまま、どうしても伸ばすことができなくなってしまったことでした。18 年もの間、この女性はこの病に苦しみ続けられてきたのです。腰が曲がってしまうということによって、この女性が背負い込んだ重荷は大変なものであったと思います。腰が曲がっていることによってお腹にかかる負担も大きく、内臓の調子だって悪くなっていたでしょう。また腰の曲がったその姿を醜いとし、蔑んで見る人もきつといたでしょう。まだ若い年齢だったとしたら、恥ずかしく、つらいことであつたでしょう。しかしこの女性は安息日に、とにもかくにもこの会堂に来ていたのです。ひょっとしたら家族からも見捨てられ、この会堂でいつも過ごしていたのかもしれない。あまり人目につかない隅っこの方で、隠れるようにして礼拝を守っていたのです。

主イエスは会堂で御言葉を語りながら、この女性に目を留められました。そしてこの女性を見て、呼び寄せられたのです。ここで使われている「呼び寄せる」という言葉は、「招く」、「語りかける」という意味です。ご自分のもとへと女性を呼び寄せた主イエスは宣言されました。「あなたの病気はいやされました」(12 節)。ここでは「婦人よ」ということばが割愛されています。「婦人よ。あなたの病気は癒されました」と言われたのです。この語りかけの中で、主は、女性の上に手を置かれるのです。そしてたちどころに腰がまっすぐになったのです。癒されたのです。続けて彼女は神を賛美し始めたのです。「腰が伸びる」とは「まっすぐになる」という意味であり、「建て直す」という意味も持っています。まさに彼女は御言葉の光の中で、自らの人生を建て直すことができたのです。ところがこの出来事を一緒になって喜ぶことができない、むしろ快く思わない人がいました。それは礼拝を司る立場にあった会堂管理者です。この人は腹を立て、憤ったのです。いったいなぜでしょうか。この日が安息日であったからです。働いてはならない、休むべき日であったからです。そもそもこの癒しを起こされたのは主イエスご自身です。別に女性が癒してほしいと、主イエスの前に進み出たわけではありません。会堂管理者は直接面と向かって主イエスを非難することがはばかられたのでしょうか。主イエス対してではなく、群衆に向かって

言いました、「働いてよい日は六日です。その間に来て直してもらうがよい。安息日には、いけないのです。」(14節)。この会堂で起こっていることの最終責任者は会堂管理者です。彼なりに秩序が乱れるのを恐れたのかもしれませんが、ユダヤ当局から目をつけられることを恐れたのかもしれませんが。

しかし主イエスは厳しいお言葉をもってこの会堂管理者の非難にお応えになりました。「偽善者たち」と複数形で言われています。主はここで会堂管理者一人だけではない、会堂管理者に代表される律法学者やパリサイ人と呼ばれる人々、神の戒めを用いて、人を判断し評価し、裁くための道具として使っている人々全体を問題にしておられるのです。彼らの「偽善」はどこにあるのでしょうか。彼らが牛やろばを飼い葉おけから解いて、水を飲ませに引いていくことは安息日であっても許容されていたのです。

主イエスは問われます。家畜でさえもそうであるとするならば、この女性が今まっすぐに立ち上がることができるようになったことを、どうして一緒に喜べないのか。一人の女性が心までも固くなって御言葉を聴くことが難しくなっていた時に、主の招きによって新しく立ち直ることができた。人生を建て直すことができた。真実の礼拝を取り戻すことができたのです。その一方で家畜が安息に与ることができるようにという心配りを教えるあなたたちが、なぜ他方では、それにも勝るに違いないこの女性の新しい歩みを、不愉快に思ってしまうのか。家畜の一日の渴きにさえ、配慮できるはずのあなたたちがなぜ、18年もの長きにわたって曲がった腰に苦しめられ続けてきた女性の癒しを、共に喜べないのか。あなたたちがこの女性と礼拝をする群れとして共に歩んできたのなら、女性の苦しみを理解し、共に祈る歩みを続けてきていたならば、この人が癒された時、会堂には皆の喜びが満ち溢れたはずではないのか。そうでないのは、表面では神の戒めを尊んでいるように見えながら、心の奥底では自分の好き嫌いに支配されているからではないのか。と言われるのです。

この女性の癒し自体は他の癒しと比べて少し違いますが特別なものではありません。しかし主イエスは会堂管理者に反論される際、この女性のことを「この女はアブラハムの娘なのです。」と言われました。ユダヤ人にとって受ける祝福の出発点は「アブラハムの子」です。つまりすべての祝福はアブラハムから来るということです。ですからこの女性も神の祝福の流れにあるということです。主イエスはこの女性のことを足が不自由でいつも会堂の片隅にいる人とは呼ばれませんでした。アブラハムの子、ユダヤ民族の誇り高き子と呼ばれたのです。また幾度か「この女」と書かれています。がちょっと冷たく淡々した感じがします。むしろ「この女性」の方が原意に近いと思います。また前にも言いましたように「あなたの病気は癒されました」の前には「婦人よ」という言葉が割愛されています。つまり、主イエスの関わりを見てゆくとこの女性のことを丁重に扱っておられる姿が浮かんできます。この女性にとって主イエスのことばがどれほどの祝福であったかが想像されます。

この主イエスの姿から人を励ますことにおいて幾つか学ぶことが出来ます。まず神様がこの女性の存在を尊び、重んじておられるという視点に立ってなされています。私たちにとって教会の兄弟姉妹は私を神様が愛して下さっているのと同じ重みをもってその方を愛しておられるということです。週報に上げました今週のみことば「ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。」テサロニケ第一 5章 11節 人の徳を高めるとは相手の価値を高める、相手の値うちを高くするという意味です。そのことはまず神が私のことを価値ある者として高く見て下さっていることから始まります。

次に人を励ます時にはその人のことを思いやるための時間、労力が必要です。この時、主イエスは大忙しな時でした。「イエスは、町々村々を次々に教えながら通り、エルサレムへの旅を続けられた。」22節

とありますから。主イエスはご自分の日程よりも、この女性の切実な必要、霊的、肉体的必要を優先されたということです。そしてイエス様は彼女を肉体的に癒されただけでなく、霊的にも立ち上がらせてくださったのです。

新約聖書では「励まし」という言葉は、しばしば「寄り添う」という意味で使われています。慰め主である聖霊はパラクレートス（傍で声をかけて下さるお方）と呼ばれ、私たちに教え、キリストの道を示してください。寄り添うわけですから自分のことは後回しとなります。主イエスは徹頭徹尾、私に焦点を当ててくださいました。ですから私たちも良き励まし手となるためには人々の必要に焦点を合わせる必要があります。

私たちはひとりひとり、隣人を喜ばせ、その徳を高め、その人の益となるようにすべきです。

キリストでさえ、ご自身を喜ばせることはなさらなかったのです。ローマ 15:2,3

私たちの周りを見回した時に励ましを必要としている人はいないでしょうか？ よく分からない場合は自分自身を振り返ると良いですね。「あなたは励ましを必要としていますか？」誰でも励ましを必要としているのではないのでしょうか？正直言って、私は励ましを必要としています。

主は私たちが良き励まし手となることを願っておられます。しかし、互いにそれがなされないと疲れ果ててしまいます。良き励まし手となるために自分のことよりも人のために時間や労力を費やす必要があります。人を励ます、慰めるという行為は結構、エネルギーが必要だからです。ですから神は互いに励まし合いなさいと言われます。

この週も主にあって良き励まし手となることが出来るように祈ってまいりましょう。